

【広尾】J Aひろお（組合員151人）の総会が21日、町農村環境改善センターで開かれた。2019年度の農業総生産額は前年度比3.1%増の80億6,000万円と初めて80億円を超え、9年連続で過去最高を更新した。

生産額の内訳は、酪農・畜産が同2.5%増の77億2,400万円、農作物はジャガイモやビートなどの収量が計画を上回り、同17.4%増の3億3,600万円だった。

生乳生産量は同2.2%増の5万9,972トンとほぼ前年並み。和牛素牛相場は枝肉価格の下落などはあったが、和牛の販売額は3億8,000万円(9.5%減)と計画を上回った。

経常利益は43.7%減の3,770万円、当期剰余金は47.3%減の2,515万円だった。

新年度事業には、担い手確保事業の実践や家畜ふん尿

処理対策の検討、昨年設置した防疫対策室を中心とした家畜疾病対策の強化などを盛り込んだ。

総会は新型コロナウイルスの感染防止のため書面議決とし、本人出席は役員らのみとした。

任期満了に伴う役員改選では、萬亀山正信組合長と広瀬孝雄筆頭理事が退任した。総会后、組合長を5期15年務めた萬亀山氏は「農業振興とともに地域振興にも力を入れた。生産高はこの15年で倍増し、多くのご協力に感謝したい」と述べた。

【池田】J A十勝池田町（鈴木雅博組合長、組合員256人）の第31回通常総会が22日、町西部地域コミュニティセンターで開かれた。2019年度の農畜産物粗生産額は前年度比9.4%増の63億5,400万円で、共済金や水田活用直接支払交付金を加えた総額は6.7%増の67億9,900万円となった。17年度の70億9,200万円に次ぐ過去2番目の実績。

総会は新型コロナウイルス感染予防対策で本人出席の人数を抑えて実施。書面を含め249人が出席した。

農産部門で畑作は15.4%増の41億4,918万円で、干ばつや猛暑、低温、長雨など極端な天候の影響を受けたが、7月下旬の高温で回復し、ほぼ平年を上回った。

酪農畜産部門は、乳価は上昇したが外食産業の不振や消費の低迷があり、枝肉価格が一時低下したことから0.2%減の22億100万円にとどまった。当期剰余金は1億

9,178万円で、出資配当金は1%とした。

鈴木組合長は「先の見えない中での総会開催だったが、議案全てに十分な理解と協力をいただき可決できた」とあいさつ。来賓の村田政宣副町長らが祝辞を述べた。

また、来年3月1日のJ A十勝高島（八木英光組合長）との対等合併を承認した。それに伴う経営計画や合併実行委員会設立などを確認した。

【池田】J A十勝高島（八木英光組合長、組合員160人）の第69回通常総会が22日、町北部地域コミュニティセンターで開かれた。2019年度の農畜産販売額は前年度比12.8%増の32億8,891万円で、初の30億円台となった17年度の30億940万円を上回り、過去最高を記録した。

農産部門では、記録的な小雪で土壌凍結が深く、一部で春耕の遅れも心配されたが、天候に比較的恵まれたこともあって、小麦、ビート、豆類の収量は平年を上回る好結果となった。販売支払額は前年度比6%増の18億9,664万円だった。

また、酪農畜産部門は、一昨年に本格稼働した酪農法人の増産などもあって、生乳生産量は20.7%増の9,534トンと好調だった。このほか、素牛価格は引き続き高値で推移した。当期剰余金は8,266万円で、0.7%の出資配

当を行う。

総会には委任、書面議決を含めて153人が出席。冒頭で八木組合長は「新J A農業振興計画・中期経営計画を着実に進め、今後も町内の組合員の意見を聞きながら両農協の役員でさらなる農業の発展に努めたい」とあいさつ。来賓の勝井勝丸町長らが祝辞を述べた。

また、来年3月1日にJ A十勝池田町と対等合併することを承認し、今後の取り組みなどを確認した。